

令和3年度霞ヶ浦学講座第11講「ジオパークってなんだろう?!」実施報告案

実施日時：令和3年10月30日（土）13:30-15:30

場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール

講師：富永紘平氏（筑波山地域ジオパーク推進協議会ジオパーク専門員）

参加者数：30名

概要

筑波山地域ジオパーク推進協議会富永氏を講師にむかえ、「ジオパークってなんだろう?!」をテーマに学習を行いました。

前半は、霞ヶ浦湖岸域の田村・沖宿、崎浜、歩崎のジオサイトのバーチャルジオツアー（写真、映像）を講師の案内の下、行いました。

後半は、霞ヶ浦の成り立ちや霞ヶ浦の地形改変を題材にジオパークについて学習しました。

【講演概要】

ジオパークの「ジオ」は「地球・大地」という意味があり、ジオパークは「大地の公園」ともいわれています。筑波山地域ジオパークは平成28年9月に日本ジオパークに認定されました。本ジオパークは石岡市、笠間市、つくば市、桜川市、土浦市、かすみがうら市の6市の範囲からなり、その中には筑波山・霞ヶ浦・関東平野を含んでいます。ジオパークの活動は、ガイド、市民団体、地域の事業者・観光協会、専門家、行政などからなる筑波山地域ジオパーク推進協議会が進めています。筑波山地域の地形・地質、自然、文化を切り口に保全、教育、観光に取り組んでいます。

【疑似体験！筑波山地域ジオパーク】（霞ヶ浦の地域資源を地形・地質から考える）

キーワードは「霞ヶ浦は、なぜレンコン日本一になったのか?」です。

（バーチャルジオツアー見学地点は田村・沖宿のハス田、崎浜カキ化石床、歩崎観音です。）

- ・ 田村・沖宿のハス田 霞ヶ浦の湖水に近い平坦面です。河川や海が削った段丘地形を見ることができます。
- ・ 崎浜のカキ化石 約13万年前に生息していたカキの化石床を見ることができます。
- ・ 歩崎 歩崎観音の参道では、過去13万年の海から内湾、河川へと変化した証でもある地層を見ることができます。

霞ヶ浦湖岸域のレンコン生産が日本一になった理由としては、

- 1) 地形・地質的な背景として霞ヶ浦周辺には海水面の変化で形成された水持ちの良い低地が広がっていたこと。
- 2) 歴史的な背景として減反政策で、稲作からの転作が進められていたこと。
- 3) 地理的な背景として 首都圏など大消費に近かったこと。

などがあげられます。

筑波山地域ジオパークで、身近な農産物や特産品などと大地の意外なかかわりを楽しむことができます。

【ジオパークとは？】

霞ヶ浦は海から川そして湖へと変化してきました。地球規模で、過去数十万年間をみると霞ヶ浦は海が広がった時代、陸が広がった時代を繰り返していることがわかります。それらの要因として気候変動が挙げられ、地球の自転・公転運動の変化が関係しています。

ジオパークは、身近なところから地球の活動に触れる機会も提供しています。

近世以降は利根川東遷、明治期の利根川改修、干拓、常陸利根川の修復、常陸川水門設置、堤防の建設などにより湖岸も地形改変が行われ、霞ヶ浦の姿も大きく変わってきました。加えて、富栄養化の進行などにより水生植物も減少してきました。一方、湖岸堤防はつくば霞ヶ浦りんりんロードとしても活用されています。このように霞ヶ浦の姿は時代を超えて変化をしてきました。私たちはどのような状態の霞ヶ浦に価値を認め、残していきたいのか考える必要があります。

ジオパークは地域の地形・地質とそれらと関連した自然、文化を対象としています。価値のある大地の遺産とそれを広める活動をあわせジオパークと捉えることができます。

ジオパーク活動には3つの柱があります。

- ・保全 価値のある地域資源を次世代につなげる
- ・教育 地域資源の価値を伝えていく
- ・観光 地域資源を活用して地域振興につなげる

これら保全、教育、観光が一体となったプログラムとしてジオパーク活動を広げていくことが重要です。

(文責：小川)

所感

行楽日和の秋晴れの中、多くの方々が講座に参加しました。参加者の皆様はバーチャルジオツアーに興味深く魅入っていました。質問も多く、ジオパークへの関心が高いことがうかがえました。

